

福井県立鯖江青年の家(1/2)

人と出会い、 自然とふれあえる、 里山の宿泊研修施設です！

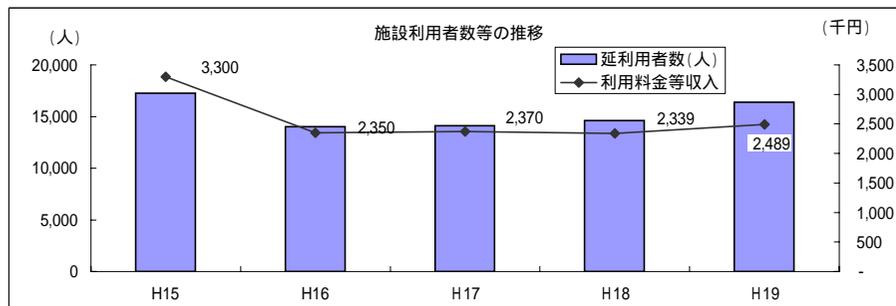
所在地	鯖江市上野田町19-1		
設置年月日	昭和48年2月1日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、延4,151.61㎡、宿泊室(120名)、研修室(120名)、多目的ホール(60名)		
職員数	5名		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
延利用者数(人)	17,243	14,015	14,101	14,601	16,382
利用率(%)	32.4	27.0	25.2	24.9	

利用者負担(使用料金)等

使用料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校・大学生	390円
	小・中学生	270円



利用状況の推移	<p>完全学校週5日制の徹底と学校行事の見直し・精選により減少傾向にあった利用者は、平成16年度には14,000人余まで減少しました。</p> <p>しかし、魅力ある主催事業の取組みに伴い、平成16年度以後わずがずつですが増加に転じており、平成19年度は16,000人台と大幅に増加しています。</p>
---------	---

施設の特徴

自然豊かな里地、里山に囲まれた社会教育施設です。

- ・上岡山の自然を活かしたウオークラリー等、地域に根ざした学習環境づくりを推進しています。
- ・丹南地域のほか、県内外の各学校やスポーツ少年団等に利用されています。
- ・また、大学生を中心としたボランティアリーダーの育成の場としても活用されています。



鯖江青年の家ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/sabae-seinen/html.html>

平成19年度の特徴について

事業実績	<p>自然豊かな立地条件を活かしたプログラムを主に、花とクラフト、きこり体験、植物標本づくり、星空にアプローチ、バードウォッチング、布ぞうりづくり、きのこの森体験学習などを実施しました。 【延参加者数：767名】</p> <p>県内の小学生から中学生を対象に、夏休みを利用して宿泊しながら様々な体験活動を行い、思いやりや自主性を養うことを目的とした長期宿泊体験事業を実施しました。 【延参加者数：40名】</p> <p>主催事業の写真を食堂に掲示し、研修・活動内容を来館者に周知できるようにしたほか、敷地内の樹木に、種類・名前・特徴・写真付きのプレートを設置し、利用者に学習しやすくしました。</p>
------	--

鯖江青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	52,115	63.7%	104.7%
	退職給与引当金繰入	60	-0.1%	-18.5%
	計	52,055	63.6%	103.9%
物にかかるコスト	物件費	18,760	22.9%	107.5%
	維持補修費	2,621	3.2%	85.6%
	減価償却費	8,325	10.2%	100.0%
	計	29,706	36.3%	103.0%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	0.0%
	その他	5	0.0%	100.0%
	計	5	0.0%	3.4%
合計		81,766	100.0%	103.4%
収入	利用料等収入	2,496	3.1%	106.7%
	その他収入	198	0.2%	103.7%
	一般財源	79,072	96.7%	103.3%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産	前年比	負債	前年比
有形固定資産	353,463 97.7%	固定負債	39,715 99.8%
うち土地	69,000 100.0%	うち退職手当引当金	39,775 100.8%
うち建物	291,629 97.2%		
投資等	0 -	流動負債	0 皆減
流動資産	0 -	正味資産	313,748 97.4%
計	353,463 97.7%	計	353,463 97.7%

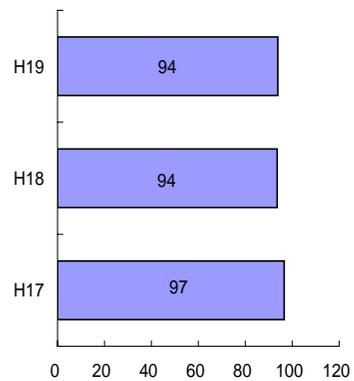
主な指標

(単位: %, 円/人)

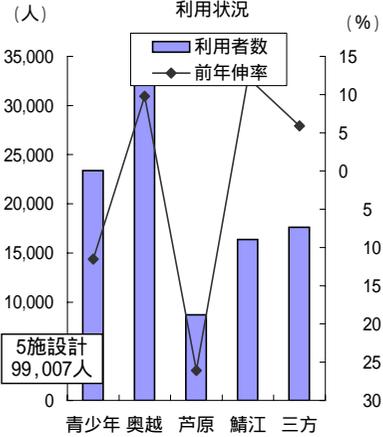
	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	434	442	97.5%
県民1人あたり将来負担額	49	49	102.1%
世代間負担率	88.8	89.0	112.6%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト全体では、前年度比0.2%の増加と、前年度とほぼ同額になっています。</p> <p>資産は建物が約80%、土地が約20%を占め、建物の減価償却分だけ毎年減少しています。</p> <p>将来の財政負担要因となる負債は、退職手当引当金のみで、県民1人あたり将来負担額も低い水準になっています。</p> <p>利用料金等収入は、施設利用者が増加したことから6.7%増加しています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) [H20予算額: 約21百万円]</p>
今後の課題	<p>冬期間の利用者の増加を図り、年間を通じた利用者の増加を目指す取組みが必要です。</p> <p>そのためには、職員の資質向上を図るとともに、地域や専門の知識を持った方などの協力を得て、事業内容を充実していかなければなりません。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>青少年の体験学習、親子のふれあいを充実するため、次の取組みを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、豊かな自然と人的資源を活かした活動プログラムの工夫と充実 ・当所が提供する体験メニューにとらわれない利用者の自主的な研修活動の推進 ・ホームページ、情報誌等による広報に努めます。

県民1人あたりのコスト負担の状況 (円)



各地区青年の家等の利用状況



各地区青年の家等の連結バランスシート

